

KOBE MONOGATARI

神戸の物語

緒方しげを NO・10





季節はつ

オールド色。

心者に

染まりし

光り...

...



WHOLESALE & EXPORTER of cultured pearls
KINOSHITA
PEARL
CO., LTD.

Order Salon

株式会社 木下真珠

〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7(北野坂)

TEL (078)221-3170

10:00AM~6:00PM (無休)

ネックレス ¥653,000 プローチ ¥510,000 リング ¥155,000 イヤリング ¥168,000

きらきら ときめき
ファーシーズン

HIGH
FASHION
FUR
COLLECTION

新作毛皮展示即売会

10月23日(木)~28日(火)
さんちかホール

ファーファッションショー

24日(金)・25日(土)

さんちかホール

12:00~12:35・17:00~17:35

どうぞご自由にご覧下さいませ。



Pierre balmain
GUY LA ROCHE
LANVIN

真珠・貴金属・毛皮・輸入婦人服

Ω ム・ラマ

さんちかシティエレガンス／神戸市中央区三宮町1丁目10番1号 ☎(078)391-3886

本社／神戸市中央区元町通6丁目7番8号明邦ビル ☎(078)341-8041代

甲子園店／甲子園球場南・阪神パーク隣 ☎(0798)48-5218

クルクルッとイタズラ描きをしたみたい。ポップな雰囲気がティータイムを楽しくしてくれます。

土



クラフトのある暮らし

- 前期：10月2日(木)⇒14日(火)
- 後期：10月16日(木)⇒28日(火)
- 5階リビングフロア

水



シャープで流れるような曲線には、誰も見とれてしまうはず。さあ、美しい木の鳥をお部屋でバードウォッチング。

いく度もお化粧されて、独特のツヤが生まれたうるし塗り。ハッとするほどの朱色がひと目をひきます。

塗



染

懐しい時代へと心をいざなう異人たち。やすらかな空間を生み出す手染めのクッションです。

暮らしに
あたたかい主張。

やさしい形、あたたかい表情。クラフトの持つ豊かさが人の心をひきつけます。北から、南から、73人のクラフトマンたちの技と心意気が21のテーブルに集う5階フロア。暮らしに息づく人の手が、こんなに素晴らしい。



DAIMARU KOBE

電話 (078) 331-8121 水曜定休

生活公園

ファッションもインテリアも、あたたかい香りをふりまいています。自然の素敵な感触。そして、いかにも“秋”という顔ぶれが先を競って生活公園におめめえ。秋風のようにしなやかな心で、ファッションウォークしてみませんか。



DAIMARU KOBE

電話 (078) 331-8821 水曜定休

海に見える白いチャペルでウェディング。

御結婚披露宴・

各種パーティー

好評予約受付中



海を見ながら、神戸ならではのファッションなブライダルは、恋人たちの夢。
白亜のチャペルに続くホールでのご披露宴や、劇場を利用した世界で初めての
シアターウェディングなど、感動的シーンの演出を心がけています。
カリヨンの音色に祝福されて、慶びもいよいよクライマックスに――。

ゴーフル ポートピア88
神戸 風月堂 港島

〒650 神戸市中央区港島中町7-2-2 ☎(078)302-5555

本社/〒650 神戸市中央区元町通3丁目3番10号 ☎(078)321-5555

ゴーフル ポートピア88
ボートライナー中埠頭駅前
(ゴーフル白いチャペル前)



孫悟空

日 中 合 作 ・ 青 島 市 京 劇 団 ・ 日 本 初 公 演

昭和61年12月6日(土)・7日(日) ワールド記念ホール (神戸ポートアイランド)

◎開演=6日(土)/午後2時30分・6時 7日(日)/午前11時・午後3時 ◎入場料(全席指定)→S席:前売5,000円・当日5,500円 A席:前売4,000円・当日4,500円
◎スタッフ=劇本・構成・演出/寺崎要 美術/三宅昌子 照明/藤堂次郎 音楽/山田弘一 アクション監督/岡崎應 音楽監督/タケカワユキヒデ(沖田順) 芸術指導/高松令、祝王志
◎後援=中華人民共和国駐日大使館、中華人民共和国駐大阪総領事館、兵庫県、神戸市、兵庫県教育委員会
神戸市教育委員会、神戸国際交流協会、神戸華僑協会、大阪華僑協会、兵庫県日中友好協会、大阪府日中友好協会

主催=関西テレビ放送

アクション ファンタジア

孫 悟 空



ナレーター
西川 きよし



好評前売中!!

前売場所=阪急フレイグッド(梅田・三番街・千里中央)・阪神フレイグッド(梅田・三ノ宮)
・チケットセンター・フレイグッド21・チケットぴあ・ビブレ(三ノ宮)・ルックスフレイグッド(三ノ宮)
・星電社三ノ宮本店南館1Fフレイグッド・その他、大阪・神戸の主要フレイグッド、ゴクウ
電話予約 06-309-0059
お問合わせ



新宿・高野

BONFUKAYA

リザ・サロン

ゲルラン

ココ山岡

VICKY

LEE SOPHY

ELLE

アベニュー22

ブライダルサロン・ルーブル

ダイアナ

サイズショップダイアナ

OFU

CLAUDE LEMA

ZAZIE

LE.MON TEA

三愛

AUTUMN
COLLECTION



FASHION
PARK

神戸・三宮(さんプラザ・センタープラザ)

3F

営業時間 ———— A.M11:00~P.M8:00
PHONE ———— 078(332)1698

年齢とともに、やわらかく変化していく女性の体を
シャルレは、ファッション的に科学しました。



年齢とともに皮下脂肪が付きやすくなるのは、女性の宿命です。でも、正しいファンデーションで正しく補整すれば、均整のとれた美しい曲線がつかれるはず。シャルレのガードルは、独特のカッティングと伸縮性のよいパワーネットの組合せで無理なく補整。しかもお尻よりすこし高い位置に、ふくらみをもたせたデザイン。お尻をこの部分にもちあげて整え、丸くてキュッともちあがった、美しいヒップラインをつくるのです。これまでのガードルのように、無理に押さえつけないので太ももやウエストラインも美しく保てます。大人の女性のための、シャルレ。きれいな曲線で、美しく洋服を着こなしてください。株式会社シャルレ 〒650 神戸市中央区港島中町7-7-1 TEL.078-302-7171(代)



シャルレの基本は、試着していただくことです。試着のご希望、下着に関するご相談は、お気軽にお電話で。

●お客様相談室専用電話 神戸078-302-7181 東京03-457-0938(ご利用時間10:00~12:30、13:30~16:00)

●写真はナチュラルシェイプシリーズ/ガードル(ショート)FE101

☆私の意見

ロータリークラブの活動を通じて国際理解を

坂田 元記

△国際ロータリー第268地区ガバナー▽



現在、ロータリークラブは全世界に約二万二千あるのですが、大体五十クラブで一地区を構成しています。その第二六八番目のガバナーを今年の七月から来年の六月まで務めることになりました。第二六八地区は兵庫県全域で神戸市の十一クラブをはじめ、六十一のクラブがあり、それぞれが活発に活動を行っております。ガバナーは、その各ロータリークラブを一つ一つ回り、活動状況を視察し、よりよい活動を行うためのアドバイスを行うわけです。

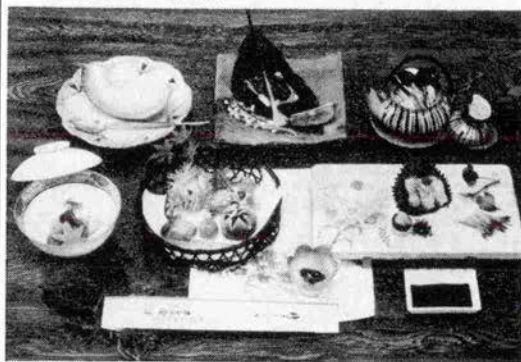
ロータリークラブの活動は四つの柱で成り立っています。第一番目は会員相互の親睦を深めるためのサービス奉仕。第二番目は、自分たちの仕事を通じての職業奉仕を行う。つまり、自分の職業の道德水準を上げるとともに、職業を通じて社会に奉仕する。第三番目は、地域社会に対する奉仕。第四番目は、国際理解を深め、国際親善を進め、国際平和のための奉仕。ロータリークラブの会員は、一業種に一名しか入会できません。つまり異業種交流プラザとなっているわけです。円高などで不況になっている時に、新たな職業を通じた地域社会に対する奉仕ができないか、と思っています。

今、世界のロータリアンが手をつないで、地球上からポリオ（小児麻痺）を絶滅させる運動を行っています。ポリオにかかると、後遺症が残ったり、死亡する場合もあり、現在でも年間五万人が死亡し、五十万人が障害者になっています。現在、ポリオに対して、副作用がなく効果の高いセービン・ワクチンを全世界の子供達に飲ませるべく努力しているわけです。国際ロータリークラブが誕生して一〇〇年目が、二〇〇五年に当たり、一〇〇周年を迎えた後は、結核、破傷風、ジフテリアなども絶滅させてしまおう。私どもはこれを「ポリオプラス計画」と呼んで、実行に移そうとしています。

ともすると、奉仕活動は金持ちの道楽のように思われがちですが、このように、ロータリアンが真剣に奉仕活動を行っていることを知ってもらいたいと思います。

——一箸に四季折々の味をひそめて——

華麗な味覚



'86日本料理 (11月9日まで)

秋声の膳

「鯛造りと吹寄せ」

菊衣コース

食前酒、前菜など料理10品

税・サ込 8,200円

葛紅葉コース

食前酒、前菜など料理12品

税・サ込 10,000円

政府登録国際観光旅館

ホテル全但

〒650 神戸市中央区下山手通4-5-1〔全但会館〕

市営地下鉄山手(県庁前)駅下車東出口2番1分

電話神戸078(391)3838代

P ご来客様用駐車場完成

秋味一席

十月十二日(土)・十一月九日(日)

お一人様 二二,〇〇〇円
食事二,〇〇〇円 サービス料二,〇〇〇円 税金二,〇〇〇円

山海の幸が最高潮を迎える秋。
オリエンタルホテルならではの最高の
雰囲気とおもてなしの中で、心潤う
ひとときを存分にお楽しみください。

日本料理 石 庭

神戸オリエンタルホテル17時~21時半

○遠藤文夫の日本料理

向、煮物、造り、鮎、八寸、焼肴
強肴、ごはん、香の物、フルーゼ

スカイレストラン

神戸オリエンタルホテル11時~17時・22時

○石坂勇の洋風会席料理

赤貝のサラダ、香草風味、たらの白子のムー
ス、サフランソース、車海老とハバイヤキ、コ
イ風味、かぼすのソルベ、神戸牛角切りス
テー、キ森のきのこ添え、季節野菜添えその他

六甲スカイレストラン

六甲オリエンタルホテル6時~17時・21時半

○田端政彦のフランス料理

冷製オードブル、平目の芝海老包み、キャベツ
添え、グリーンソース、柚子のシャレーベッソ、
神戸牛フライド肉ステーキ
その他



六甲オリエンタルホテル

スカイレストラン ☎(078) 891-0333

〒657-01 神戸市灘区六甲山町西谷山1878

[Noon~2:00・5:00~9:30]



神戸オリエンタルホテル

スカイレストラン ☎(078) 331-8111・内線1230

〒650 神戸市中央区京町25番地

[Noon~2:00・5:00~10:00]

随 想



関係——種子
関係——水
関係——土
関係——空気
河口龍夫

ああ 神戸

田中 美穂 △二紀会同人▽

今、私は神戸にいるんだ。
帰って来たんだ、帰って来
てほんとうによかった。

この六月ギャラリーエンバ
にて個展のオープニングパー
ティの席で大勢の先生、先輩
友人、知人に囲まれて心から
神戸へ帰って来れたことへの
喜びと安堵感につつまれてい
た。一年ほどの予定で高知へ



絵の前で田中美穂さん

行ったのが二年を過ぎ、そし
て、高松、淡路と六年がた
うとしていた。

昨年二月淡路迄たどりつい
た時は心のどこかでホッとし
た気分になっていた。色々な
ことがあったけれど、ここは
兵庫県、目の前には神戸が見
える。高速艇に乗れば一時間
ちょっとで、いや泳いででも
神戸へ帰ることが出来るとい
ふ。

色々な多くの出会いがあっ
た。ギャラリーエンバのオー
ナー三浦照子先生、二月の神
戸二紀展へ出品した作品がお
目にとまり、六月エンバでの
企画展へとなる。三カ月の準
備期間そして会期中すみずみ
迄お心くばりいただきほんと

うにうれしく、心強く存じま
した。最後迄SMの作品のテ
ーマがつかめず、まだ肌寒い
早朝、スケッチブックを手に
歩き回った。とある朝、まだ
残りの月のある空に白いもの
を見た。近づいて見るとそれは
一輪のこぶしの花であった。
そばには桜がまだ枯木同然、
まもなく桜もつぼみをつける
であろうと思った時、これだ
とときめた。「四季巡礼」早
春から冬迄と、巡礼娘を一
点。やっと作品がそろった。

いつも展覧会の案内状書き
をする時同姓同名の方がい
る。六甲台の方は数年前、私
の作品を買って下さった人、
でもお顔は知らない。もう一
人は美術出版局の方、この人
とはパーティ、展覧会等でよ
くお逢いしている。個展の折
ご夫妻でおいで下さったので
おもいきって「あの……もし
かして」とおたづねした。ニ
ッコリ笑ってうなづかれた。
もうひと方、こちらも何年か
前の個展で二度も作品を買っ
て下さっているが、まだ一度
もお目にかかったことがな
い。お名前と弁護士さんと言

うことだけ。十何年も前からよく飲みに行くでっさんというお店にその方も時々お見えになるとのこと(でっさんのおとうさんいわくナイーブな青年弁護士さん)でも逢うこともない。個展初日ギャラリーへお電話があり「今日会場におられますか？」初めてお声を聞く、なぜか胸が高なる「初めまして、ずっとおります。今日六時よりささやかなオープンングパーティを致しますので、ぜひおこし下さい」「じゃあ、のちほどかがいます」ギャラリーへ入れ切れない程多くの方々遠くは三重県、大阪からもかけつけて下さり、パーティも終りに近づいた頃「山根です」と私の目の前にすてきな男性がニコニコとして立っておられました。

筑波山から遠望して

河口 達夫

△現代美術家△



筑波研究学園都市に住んでから、早いもので三年が過ぎ四年目の夏が終ろうとしている。その間、住み馴れた神戸には、何度となく往復している。関西の個展やグループ展の時や、正月や夏休みの帰省のためにである。そのためかとても懐かしい思いで神戸を回想すると言った気分にはならない。それは、神戸が懐かしくないからではなく、私にとって常に今だ身近かな都市であるからである。

したがって、神戸は生れ故郷に違いないのであるが、故郷だと意識することも少なくて、人に故郷として神戸を語ったことも少ない。神戸を故郷としてとらえるほど、気分的に離れていないからであろう。ただ、帰省する度に、住んでいた頃より印象が変化してきたように思う。やや都市として客観的に見えるようになってきたようである。

筑波研究学園都市に住んだ最初の頃、なんとなく落着かない不思議な気持ちにおそれたことがあった。それが何が原因なのかしばらくわからな

かったが、私の視線に入る風景の相違からであることに気付いた。

その風景の相違は、神戸では海が見えるが筑波では見えないと言った環境的な相違も影響しているが、眼の高さの相違によるようである。つまり、神戸では地理的に起伏に富み、視線は常に起伏との関係で上下し、視線の高低による風景の変化を楽しむことができた。ところが筑波では、私の身長の高さでしか風景が見えないといった、なんとも押しつけられたべたんとした視線である。平野が広大であるためであるが、常に自分の眼の高さでしか風景が見えない。つまり眼の前のものが見えその先の遠くのものが見えないと言った感じである。

さいわいなことに、筑波大学からも見えるが、近くに筑波山があり、その山に登れば、私の視線を持ち上げることも可能である。筑波山に富士見橋があり、晴天の日、富士山が遠望できるとのことである。

私ははるかかなたを見たい

と願望することがある。

何とかは高い所が好きだと言われているが、好きか嫌いかは別にして、せめて風景だけでもはるかなたを見たいと思う。そのためには視線を高く持ち上げるのが一番のようである。

神戸ジャズ・ストリート

原田 紀子

△ラジオ関西プロデューサー▽

「ジャズのはしごの出演頼まれたけどどうする」と私が歌っているバンド、フラット・ファイブのメンバーにたずねると、はしごと聞いただけでなにを感じたのか「面白そうだな」と乗ってきた。メンバーの何人かが大阪広告代理店やプロダクションに勤務しているせいか、みんな遊び心を刺激するものには独特の嗅覚を働かせる。

秋の盛りの二日間、神戸の北野町、中山手界隈のライブ・ハウスで行われる神戸ジャズ・ストリートと私との関わりはこうしてはじまった。

神戸ジャズ・ストリートのプロデューサー末広光夫さんにお聞きすると、この催しも

今年で五回目とのこと。毎回東京からの一流ミュージシャンや外国のプレーヤーにまじって、个性的で腕のいいアマチュア演奏家が沢山出演した。

聴き手は胸にワッペンをつけていれば、どこでも出入り自由。好みのグループと行動を共にするのもいいし、一流どころを狙うのも面白い。が、経験者によるとこの選択が難しいらしい。バイキング料理を前にしている心境でどうしても目移りしてしまうという。コツは欲張らずに二つ程のグループに焦点を当て、あとは足の向くまま気の向くまま、日頃縁のない高級クラブの偵察としゃれこむのがかっこいいそうだ。

聴き手が目移りしている間に、演奏者はひたすら次の目的地に急ぐことになる。なに

しろ会場の移動のたびに、大きなベースやドラムス、それにアンプを運んで音を調節しなければいけないからである。演奏が終わる。楽器をケースにしまう。次の店へ移動。神戸は坂道が多い。やっと次の店にたどりつく。楽器をとり出してピアノとチューニング。これを短時間で済ま

さなければいけないからである。汗だくのメンバーから小さい譜面だけを持つ歌の私に非難の目が集まることになるが、これこそ歌い手の最大の特権。これだからジャズはやめられない。

クラリネットケースを小脇に抱えた北村英治さんに店の移動の途中声をかけられた。私の本職のラジオ番組に何度か出演してくれて、余技にジャズを歌っているのを知ってくれているのである。

ジャズのはしごの最高のツマミは思いがけない人と交わす短かいが心あたたまる挨拶だと思う。プロもアマも同じ気分です。久しぶり、今度の出版はこの店」

★「コーベジャズストリート」

10月11日(土)12時~17時



ライブハウス「アルバトロス」にて(右筆者)

□れんさいエッセイ□(7)

サイン会のあれこれ

軒 上 泊(作家)・カット沢田大童

六月の末に神戸の書店で初めて本格的なサイン会を催した。

そのサイン会の案内は顔写真入りでひと月ほど前から出ていた。書店の入口や店内の何か所かに貼られていたのだが、当人としてはその前を歩く時はかなり落ち着きが悪かった。すぐ前を行く三人連れの女性たちがポスターを指さして何事か話し、そのうちの一人が偶然後ろを振り向いたりするのだ。するとこちらは慌てて下を向いて、気がつかないでほしいと願ったりしているような具合だ。さいわい、ポスターの写真は横顔だったし、写真だけでは本人と一致しにくいらしくて、その時は気づかずにすんだが、とうとうサイン会の当日まで三の宮方面へは足が向かなかった。

とはいえ、その日が近づいてくるにつれて、はたして何人の読者が現われるのか徐々に心配になってきた。もちろん、基本的には、一人でも二人でも、ぼくなんかの署名を求める方がいらっしやれば、それだけでもうサイン会の主旨は全うできることは承知していた。しかし、会場がどこか個室のような所だったらまだしも、予定されている場所は店内の、しかもいちばん眼につきやすい一画と決められていたのだ。おまけに時間も四時から五時までと決められている。たとえ署名を求め

る人がひとりであろうと、こちらは一時間のあいだ大勢の人々が行き交う場所に坐っていないといけない。幸か不幸か、ぼくはそういう状況下に置かれた場合の間の持たせ方をトレーニングした覚えがなかったのだ。

もちろん、あらかじめ神戸の友人たちに声を掛けておけば十人ぐらいいは集ってくれるだろう。しかし、そもそもサイン会などする気になったのは、自分が書いた本をいったいどんな人たちが読んで下さってるのか、そのところに興味を持っていたせいにほかならない。ここはひとつ肚を括って臨むより手はない、と久しぶりに括った肚にいくばくかのぜい肉を見つけて会場へと赴いた。

「で、何人ぐらいの方がみえたんですか？」

六十数人の方が来られたのだ。ほぼ一分に一人の割合いで、しかも一人で二、三冊買って下さった方がおられたので、予定の一時間はほとんど休みなしの状態で過ぎた。

「いや、成功ですよ」

まったく書店の方の感想どおりで、あとになって思えば、一人一人の方とも少し話したほうがよかったのではと反省しているぐらいだ。



それでも、書店のはからいで、読者の方の名前を書き込む用紙の余白に「作者へのメッセージ」という欄が設けてあって、そこには色々なことが書かれていた。

サイン会のメインになった本は「アマチュア・オブ・シリーズ」の三冊だったが、その作品の主人公は、十年も同じアーミー・ジャケットを着て神戸を舞台に素人探偵のような生業をしている男だ。実は、その主人公の経歴は作者のプロフィールとダブっている部分が多いのだが、質問の中でいちばん目立ったのは、どの程度まで、あるいはどここの部分がダブっているのかという点だった。だが、それを明かすことは、サーピスのようでサーピスではないとも言えるので返事はあいまいに

させてもらった。

ほかには、たとえばこんな質問が書かれていた。「あの『マールウ・ビジネス』という喫茶店は不動産にあるんですか？」

それについては正直に答えた。

「いえ、あれは実際にはありません」

すると、そのメッセージを書いた二十前後の男性は、少し俯に落ちないと言いたげな顔で応えた。

「でも、不動産へ行ってみたら、それにぴったりのお店があったんですけど——」

「そうですね——」

こちらとしてはそう答えるしか仕方がない。

あるいは、七十歳ぐらいの御婦人からはこんなエピソードを聞かされた。

「じつは、うちの息子も十年ほどずっとアーミー・ジャケットを着てたんですけど、ついこのあいだ、三作目の『またふたたびの冬』を読んでとうとうその服を着なくなりました」

そのシリーズの三作目で、主人公は香港へ行ってとうとうアーミー・ジャケットとさよならすることになっていった。

ぼくは少し笑みなど浮かべながら領いた。

「軒上さんもうずっとアーミーを——」

「そうです。十年ほどそればかり着てました」その御婦人の顔にも微かな笑みが見られた。

じつさい、一着の服が思わぬルートを敷いてしまふことはあるものだ。ぼくがシリーズの一作目を書き始めたきっかけは、十年ぶりに破れたアーミー・ジャケットへの鎮魂歌のつもりだったからだ。

オリジナル 神戸

稲垣美穂子〈女優〉

カット／石阪春生

神戸といえばステーキという時代がありました
トアロードの中程にある「ハイウェイ」のステ
ーキ／

あれはたしか京都の太秦撮影所で「長流」とい
う読売テレビ製作のお昼のメロドラマに出演して
いた時のことです。一回の放送時間が三十分、一
週間に五回放送するという番組でしたから総合す
ると二時間半の大作を毎週発表しているのと同じ
計算になります。ですからその撮影スケジュール
のハードさといったらありません。

撮影開始は毎朝八時、女性は一メークアップやら
ヘヤーやら準備のために七時には撮影所入りで
す。お陽さまが出ている間はロケーション、夕刻
に撮影所に戻ると今度はセットでの撮影が延々と
つづいて夜十時頃には夜食が出ます。追い込みと
もなると撮影は十二時をまわり、アツアツの深夜
食。きつねうどんが出る頃には時計は三時を通
ぎているといった具合です。そんな訳でハードな
スケジュールになればなる程、撮影隊は「食事」
をする回数が増えることになるのです。

俳優やスタッフに食いしん坊、食通といわれる

人が多いのもそんなせいでしょうか。

「つなぎ」といって、本当は夕方五時には夕食な
のですが役者のスケジュールで六時とか七時迄撮
影を続行するといった場合には夕食までのお腹の
つなぎに……という意味でパンと牛乳、うどんな
どがセットに運ばれます。そしてこのつなぎは通
常は立ち食いしながら、うどんが喉元を通過する
やいなや「ハイ、本番」と仕事続行です。

亡くなった作家、花登篋さんが初めて映画を監
督した際この食事の多さにビックリ仰天したとい
うことですが、重い重いカメラやライトを担いだ
り、四六時中走りまわり緊張している助監督や制
作マンにとってこの「食事」は欠かすことの出来
ない息抜きでもあるのです。

そんな撮影の続いたある日、ヒョッコリと一日
オフになりました。その時つれてゆかれたのが先
述のハイウェイだったのです。

霜降りの工合、分量、焼き加減に味付けと淡泊
な京都の食事つづきだった私にハイウェイのステ
ーキがどんなに美味しく、素晴らしいものであつ
たか御想像いただけると思います。

街に出れば海から吹く風に乗って磯の香がただ
よい、あおげば、目前にまろやかな緑の山々、お
まけに美味しいステーキでお腹は一杯なのですか
ら……。そんなステーキとの蜜月の後で、これま
たヒョンなことから田辺聖子さんと、お近づきに
なり、カモカのおちゃん、高橋孟さん、岡田嘉
夫さんをはじめカモカ連の皆さんと出逢い、御一
緒に阿波踊りを楽しむうちにステーキから中華の
神戸元町別館牡丹園、洋食のグーニー、お寿司の
二鶴などレパートリーも広がり新しい神戸との出

逢いを重ねています。

こじんまりと

ジャレていて

ムードあふれる店

可愛いくって

スマートで

手づくりの店

街角のどの店に入っても、その店のオーナーの
人柄をしのばせる……そんなお店が神戸にはたく
さん、たくさん建ち並んでいます。



その神戸で私は五十八年、五十九年とミュージ
カル“にんぎょ姫”“ピノキオ”の公演をしまし
た。

“日本の大人は、子供のために心と時間とをつか
わない。今に日本は亡びるよ！”

とあるドイツ人から言われたのがキッカケで生
れたミュージカル運動、それが演劇集団、目覚時
計の“にんぎょ姫”“ピノキオ”の公演なのです。

お蔭さまで五十二年暮のTBSホールでの第一
回公演以来、全国で八十一回の公演、三十万人の
ファミリーとの出逢いをしてきました。実は来年
度はTBS放送と全労済の共催で全国四十七都道
府県五十一回の公演が決まって目下その劇場や交
通、宿泊の手当てで大わらわなのです。

作品は“白姫伝説”目の不自由な少女、サヨと
お母さんとの愛の物語です。

様変わりしてしまった現代の子供たちに新しい
形でメッセージを送ろうと、シナリオも音楽も踊
りも唄もすべてオリジナル、私も役者として出演
するだけでなく、初めてプロデューサーとして作
品にかかわっています。

オリジナルティあふれる神戸で、オリジナル
・ミュージカル“白姫伝説”がどんな受け止め方
をされるか……。

昭和六十二年九月二十日（日）神戸文化ホール
での公演が楽しみなような、怖いような、そんな
この頃なのです。



△筆者紹介

昭和32年、日本女子大学在学中に、日活映画でデ
ビュー。昭和36年、日活を退社。俳優座養成所に入
り、卒業後はフリーで映画、舞台、テレビに出演。
世界の昔ばなしをミュージカルにした公演や「白姫
伝説」は昭和60年度文化庁芸術祭に参加。



<18>

すがすがしいモーツァルト は神戸に似合う

狩野 學

（財）神戸港埠頭公社理事長
神戸モーツァルトクラブ会長

東山魁夷さんに、「白い馬の見える風景」という十数点の連作があつて、好きななかでも、特に印象の深いものになっていきます。

ところが、そのモチーフとなつたのが、実は、モーツァルトのピアノ協奏曲イ長調（K488）の第二楽章であると語られているのを読んで少なからぬショックをうけ、あわてて手許のレコードを聴き直してみたわけですが、二度・三度と繰り返して聴くうちに、「ナルホド」「ナルホド」ということになり、すっかり嬉しくなつてしまつた次第……。思えば、日頃ぼんやりと聴き流してきた自分のウカツさと、ものすごく深いところでモーツァルトとつながっているこの極上の絵画きさんとは、大分モノが違っているんだナアと当然といえはそれまでながら、いささか自分が哀れになつてきた始末であります。

かえりみれば、五十年も昔のことですが、あの「未完成交響曲」「別れの曲」などの音楽映画がご縁となつて、シューベルト、ショパン、ベートーヴェンからモーツァルト、バッハなど、当時おきまりのコースをたどりながらクラシックファンなるものの仲間入りをして、日毎夜毎、「音楽喫茶」に入りびたつていた頃をなつかしむこともありますが、いずれにしても、聴く専門のクラシックファンとしては、未だに、わずかばかりのレコードを古ぼけたステレオに託して、雑然たる小書斎に閉じこもり、ものいわぬ楽聖たちとの対話をささやかなひととき

の生き甲斐としてゐるわけでありました。

四年位前になりますか、「お前も少しヒマができたやろ。一緒にやらへんか」との誘いにつれて「神戸モーツァルトクラブ」の結成に参加しました。

ほかの街にあるようにモーツァルト気狂いだけ、あるいはプロフェッショナルな連中だけが集まつて学術的、排他的なグループをつくるのではなく、むしろ素人的、アマチュア的無責任集団という性格を特色としてスタートしました。二、三年やっているうちに、もう一寸仲間意識をもっているんなことをやたらどうやということになり、まず、世話役の集団（幹事会）の強化や会員相互のふれ合いの緊密化を図ろうということで、会報（ケッヘル0）の編集発行や対話的小集会をもつことなどぼつぼつやっていますが、せめて、クラブの主催、後援行事などについては、もう少しお互いに責任をもつべきだろうなど、いろいろ進めて行きたいと思つてゐます。

プロ・アマなどの差別もいらぬこと、誰でも気易く入つてもらい、言いたいことはどんどん出し合つて楽しくやつてゆくつもりです。

昨年の夏、十数年振りで、ウィーンを訪れる機会があり、思い切つて、ザルツブルグまで足をのばしました。ぶつつけ本番の短い日程の中で、シュターツオペラ（国立歌劇場）では、前のときは「魔笛」、今回は「フ

イガロ」と、クラブのメンバーにはうらやましがられる好運に恵まれましたが、もう一つ、著名なピアニスト、フリードリヒ・グルダの風変わりなコンサートにぶつかりました。

出し物は二つとも、グルダ自作自演の現代的(?)コンチェルトで、特にウルスラ・アンダース(若くてチャリミングな美人。彼の奥さんだそうです)のために作曲した「ウルスラのためのコンチェルト」は、ジャズみ



〈左〉ザルツブルグにあるモーツアルトの生家の前で〈右〉ウィーンの森にあるレストランで

なものでしょうか。彼女が打楽器をたたきながら独唱するという大変なものでビックリしました。お客さん(勿論大部分がウィーン市民)との一体的親近感といったものが感じられ、彼の無造作なアンダーシャツ姿の天衣無縫ともいえる演奏ブリと合せて「スゴイなア」と感じました。翌日のプログラムには、モーツアルトの「戴冠式」が予定されていました。

勿論いろんな批判もあるのでしょうが、とにかく伝統というか、市民性というか、こちらとは隔絶の感を禁じ得ず、「この真似はできないナ」とも「土台がチガウもんナ」とも思いました。

ザルツブルグは、何といってもモーツアルトのふるさとだから、一度はと思つてムリして行つたワケですが、楽聖を「だし」にした音楽観光都市、といった感じで、晩飯を食ひに出掛けたレストランでも、アメリカあたりの団体さんでしょうか、ニューミュージックでダンスに興じていて騒音だけが耳に残りました。(もつとも何処でも同じことが言えるのかも知れませんが)

とはいえ、小雨そぼふる夜明け前のホーエン・ザルツブルグ城や、ザルツァッハ川のムカシを偲ばせる眺めは、流石に忘れられぬ映像です。

神戸の秋の「芸術祭」。去年まで音楽では、パッハが中心だったようですが、今年からモーツアルトを中心に、企画が進められているやにもれきします。

敢えて素人的独断と浅見のソシリを恐れつつ、いわゆるのみたいなもの、無邪気で朗らかで、ときにシンミリさせる深さ、みたいなものは勿論あるけれど、「ジメジメ」したものとは無縁だといつてもいいのではないかな。神戸というマチには、一番ふさわしい「すがすがしさ」があるのではないかな。

ズブの素人の我田引水かも知れませんが、「神戸でモーツアルトを」大賛成であります。



★ポケットの中の神戸シリーズ 《異人館のある風景》

パスポート北野

ファッショナブル神戸・北野ガイド

好評発売中＜ポケット版・200円＞

神戸を彩るチャームポイント・北野。
これは北野界限の最新ガイドブックです。

<目次>

- 異人館のある風景
- 北野から山に海に
- 北野3時間世界めぐりあい
- キタノわくわく面白ニュース

- パスポート北野エクセレントショップ200
- 真珠・宝飾・装身具
- 服飾・洋品
(婦人服飾・紳士服飾・帽子 etc.)
- 生活文化
(家具・インテリア・画廊・ギフト etc.)
- 菓子・パン・喫茶
- 日本料理
- 中華料理
- 世界の料理
(ステーキ・フランス料理・各国料理 etc.)
- ドリンクング
- ホテル・旅館・観光ポイント
- 北野町界隈歳時記

編集・月刊神戸っ子／発行・コミュニティサービス㈱／神戸市中央区東町113-1 大神ビル9F ☎(078)331・2246